井草中ＣＳ（コミュニティ・スクール）便り 第８号

２０１１年３月１日発行　ＣＳ広報部発行

井草中のめざすもの

隠れた名店･･･井草中はこんな学校になりたい。知る人ぞ知る名店･･･どんな子どもが来てもその子の希望にそえる学校。先日１月２８日に開かれた研究発表会「多様な生徒への指導法の工夫」で寺田校長先生がおっしゃった言葉です。

CS のめざすもの

多様な情報社会の中での子育ては大変です。思春期の子ども達の成長はめざましいものがある反面とても親を手こずらせる事が沢山あります。学校と保護者をむすぶｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰのような人がいればどうでしょうか？先生に相談する程のことでもないけれどちょっと聞いてみたい。自分の考えをまとめる時の手助けになって欲しい。何かちょっと学校の様子を聞いてみたい･･･etc　学校運営協議会（ＣＳ）の役割は････その“ちょっと･･･”の所にあるのではないでしょうか？　ＣＳ指定校になって４年が過ぎようとしてます。私たちは何かの形で「皆様方のお役に立てたらいいなぁー」といつも思っております。コミ担制度が出来てから私たちはどんどん子どもたちの中へ入っていきます。学校行事、ＩＳＳ“ホッと”すペーす、井草フェスティバル等々、子ども達とたくさんの時間を共有しています。

保護者の皆様どうぞ遠慮なくＣＳ委員にお声かけください。

そして子どもたちと一緒に成長して行きましょう！！

居心地の良い学校で生徒が成長しています！

－平成 22 年度ＣＳアンケート結果について－

学校運営協議会（ＣＳ）会長　坂野　慎二

【１】アンケートの実施方法等

・ＣＳでは、１～３年の全生徒を対象としてアンケートを実施しました。今年度は平成 21 年度と同じ２８の項目についてアンケートを実施しました。ＣＳでは、これまでも平成 20 年度、平成 21 年度とアンケートを実施してきました。

・平成 20 年度のアンケートからほぼ同様の項目を尋ねているため、３年生は１年時からの経年的変化（時系列の変化）をみることができます。

・同時に、前年度、前々年度の同じ学年との比較も可能です。詳細は平成 23 年 4 月発行予定のＣＳの平成 22 年度報告書をご覧下さい。

【２】全体的な傾向

結果は以下のようになりました（全２８項目）。

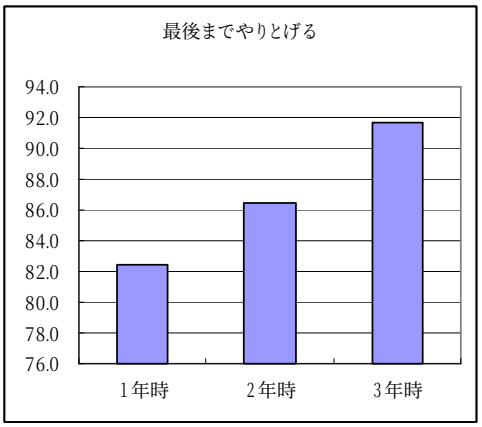
◎	（前年度等から著しく改善したもの）	６項目
○	（前年度等から改善したもの）	１２項目
△	（前年度等とほぼ同様のもの）	７項目
●	（前年度等より悪くなったもの）	３項目

→ 合わせて１８項目で改善！

・全体的には平成 20 年度、21 年度と比較して改善している項目が圧倒的に多く、井草中学校がより居心地の良い学校へと進化していることが裏付けられています。２８項目中１８項目で結果が向上しているということは、非常にすばらしいことです。プレハブ校舎という条件の下で、この１年間、生徒も、教職員も、保護者の皆さんも、地域の方も、そして私たちＣＳ関係者もがんばった甲斐があったのではないでしょうか。多くの項目で生徒は学年が進行するとともに、肯定的な回答が増えている。生徒の成長が感じられます。

【３】個別の項目について

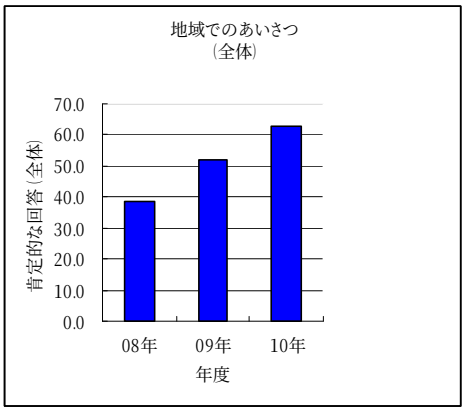
（１）生徒自身の成長



アンケート結果から、生徒が自分自身を高めるために努力している傾向を読み取ることができます。
例えば、項目４「決められた仕事は、最後までやりとげる」について３年生でみてみると、肯定的な回答が、「**１年 82.5%→２年 86.4%→３年 91.7%**」と着実な成長の跡を読み取ることができます。同じ項目４で、２年生も「**１年 77.0%→２年 80.7%**」へと上昇しています。

また、項目１６「自分がやらなければならないと思う課題がはっきりしていて、それに向けて努力している」では、肯定的な回答が、全体では「**平成 20 年度 67.4%→平成 21 年度 71.9%→平成 22 年度 74.8%**」と着実に上昇しています。経年別にみてみても、学年進行に合わせて肯定的な回答の割合が高くなっています。

（２）地域との触れあい



地域に関連する項目は、平成 20 年度と平成 21・22 年度で質問の仕方が変わっているために、３年での変化は読み取ることができません。しかし昨年度と今年度を比較してみると、肯定的な回答が増えています。例えば、項目９「この地域であいさつできる大人が多い」では、全体で「**平成 21 年度 52.1%→平成 22 年度 63.0%**」と、９ポイント近い上昇を示しています。
また、項目８「この地域のことを気に入っている」でも、「**平成 21 年度 75.3%→平成 22 年度 80.1%**」と、５ポイント近い上昇となっています。

（３）残された課題

一方、課題としてあげられるのは、項目３「難しい問題も、自分の力で解決しようと心がけている」です。そのように心がけている生徒の割合は、「**平成 20 年度 80.9%→平成 21 年度 75.3%→平成 22 年度 73.2%**」と減少傾向にあります。平成 20 年度は質問の仕方が異なるため、参考程度の数値ですが、今後生徒の自立心を促していく必要がありそうです。

また、生徒達は、友人との関係（４人に１人）、保護者との関係（６人に１人）に悩みを持っています。わずかではありますが、悩みがある者の割合が増加しています。思春期の生徒達には悩みがつきないものです。気持ちに余裕を持って向き合っていきたいですね。

いろいろな場面で地域と双方向⇔

10月２６日(火)　「合唱コンクール」
会場：杉並公会堂

１１月２４・２５日（水・木）
２年生　音楽授業　**「伝統音楽に学ぶ」**
地域にお住まいの高谷浩子先生が日本の伝統“お箏”を教えに来て下さいました。
演奏だけでなく座り方、挨拶の仕方などの礼儀についてもご指導いただき凛とした一時でした。

１１月２７日（土）
「井草フェスティバル」小中高生、
地域の大人含め約５００名参加

１２月１２日（土）　「ＩＳＳ」
（井草サバイバルスピリッツ）
フェスティバルの反省会を兼ね、地域のお宅にみんなで行って伐採した竹で、棒焼きパンとバーム（バンブー）クーヘンを作りました。

１２月２日（木）
３年生**「国際交流授業」**
ユネスコで井草中ＯＧの板倉徳枝さんのご協力で１０カ国１２名の外国人講師をお招きしました。

１２月１４日（火）
「桃四小交流授業」
桃井第四小学校５年生が１年生と交流授業を行いました。

１２月１７日（金）
「Ｉ組ドラムサークル」
Ｉ組とＣＳ交流で行っています。今年で４年目となり当日は公開授業日でＣＳ委員をはじめ地域の方も一緒にドラムサークルを楽しみました。

１２月１５日（水）
「出張授業　３年生選択音楽授業」
近くの上井草ふれあいの家に２３名の生徒が、名づけられて葉、I LOVE、信じる、の３曲の合唱を披露しました

１月１８日（火）予選・２１日（金）決勝戦！
「一年百人一首大会」
さむ～い体育館ピンと張りつめた緊張感の決勝戦、優勝はＢ組。
　コミ担や保護者が多数応援にきました。

１月３０日（日）
上井草児童館
「もちつき大会」
　ＩＳＳのメンバー
７名が杵でもちをついたり、丸めたりと地域の方に教えていただきながらもちつき大会の手伝いをしました。

２月２日（水）**「一年地域交流道徳」**
ＣＳ、支援本部、保護者、ＯＢなど２４名が地域から参加。１０日に実地される「都内めぐり」の下調べを各班に入り、質問などをし双方向授業を行いました。

２月１８日（金）
「３年家庭科保育体験授業」
講師は地域の１才前後の赤ちゃんとお母様。質問しながら、生徒の手作りおもちゃで遊んでふれあいました。
６月にも行われた授業で乳児期の成長を知ることができる貴重な体験となりました。

２月２２日（火）
「三谷小学校交流授業」
三谷小学校５年生と１年生の交流授業を行いました。

～リレーエッセイ～　牛田（うしだ）　伸一（しんいち）（創価大学教育学部）

　井草中学校の旧校舎が普通に使われていた最後の年度（平成２１年度）から、CS の委員をしています。職業は大学教員です。研究の専門分野は教育学、とりわけ学校教育学です。特殊な職業のせいなのでしょうか、学校がどのように運営されているか、CS 委員になりたての頃は、そのような問いを持ちながら井草に足を運んでいました。
　そうした中で井草中から教えてもらった大切なことがあります。それは、システムだけがあってもダメで、その中で活動する人々の輪ができてはじめて、仕組みは上手くはたらくということです。この新しくもない命題を強調する理由は、単純ですが、これが「言うは易く行うは難し」だからです。CS も一つの機構です。だから、単なる冷たい仕組みに過ぎないともいえます。でも、井草には仕組みの冷たさを温めてくれる具体的な人たちがたくさんいますし、その人たちが協力の輪をつくって、学校を支えてくれています。そこで浮かんでくるのは、なぜこの「行うは難し」ができているのか、ということです。正直に告白すると、答えは全く分かりませんし、それどころか逆にこの（うれしい）謎は深まるばかりなのですが……。
わたしがかかわった短い期間だけでも、だんだんと人の輪が大きくなっているのが分かります。人から人へ輪が広がり、この波にさらわれて、わたしもその輪の一員になったわけですから。内向的なこのわたしに、「できる範囲ででも何か井草中の役に立てないかな」と思わせてくれるのもの、きっとこの人の輪（仕組みではなく）がなせる技だと思うのです。今後ともよろしくお願い申し上げます。